福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	新型コロナウイルス簡易抗原検査偽陽性検体における 呼吸器系病原体の検索
発表学会名	令和２年度地方衛生研究所全国協議会東海・北陸支部微生物部会
発表者名	坂井　伸成（保健衛生部）
開催場所	富山県衛生研究所（オンライン開催）
発表日時	令和３年３月５日（金）　10：00　～　16：00
発表内容	医療機関で新型コロナウイルス抗原検査陽性もしくは判定困難として搬入された検体において、当所で実施したリアルタイム RT-PCR 検査は陰性となる偽陽性を経験した。偽陽性の定義として、リアルタイム RT-PCR 検査結果を正しい結果としている。 端緒となった事案として、長期入院患者で複数の抗原検査陽性が発生した。抗原検査陽性者を含む当該病棟の患者と医療従事者のリアルタイム RT-PCR 検査を実施したが、全て陰性であった。他施設で、小児の偽陽性検体でライノウイルスを検出したと情報もあり、発熱等の臨床症状を有する検体についてエンテロウイルスの検索を行い、ライノウイルスを検出した。そこで以降の偽陽性となった検体について呼吸器系ウイルス（エンテロウイルス、ヒトボカウイルス、ヒトメタニューモウイルス、RS ウイルス、コロナウイルス、パラインフルエンザウイルス）の検索を実施した。 ２６検体を検査し、５検体でライノウイルスを検出した。５検体中３検体は２０歳未満であった。国立感染症研究所で実施されたライノウイルスとの交差反応性の検査では、偽陽性は無かったと報告があった。しかし検出されたウイルスと宿主での免疫反応が簡易抗原検査において何らかの影響を与えた可能性は考えられる。また偽陽性を誘発する要因として特に粘稠性の高い検体を用いた場合が挙げられている。